

学芸館

にちょう

仕上げ、より美しく



「溶接士を目指したきっかけを教えてください。」

渡辺 もともとものづくりが好きで、手に職を付けたいと思ったからです。日本精機の溶接士は、さまざまな競技会で入賞を重ねていて、技術を伸ばしたいと入社しました。

「どんなところにやりがいを感じますか。」

渡辺 努力した分だけ技術が向上するところです。発注者が求める性能や耐

もっと聞きたい 渡辺 智明さん

久性を満たした製品を作るのは当たり前のこと。その上で、ビード(溶接痕)をより美しく仕上げるのが一つの目標です。同じ性能の製品でも、誰が溶接を手掛けたかによって、ビードの見た目は全然違います。より良い見た目は、品質への信頼も高めてくれます。

「仕事をする上で心掛けていることは何ですか。」

渡辺 体調管理です。作

わたなべ・ともあき 1980年秋田市生まれ。秋田工業高卒業後、鷹巣技術専科で溶接技術を学び、2000年に日本精機入社。現在は生産技術部製造課の課長。秋田市住。

業中は立ちっぱなし、あるいはかがんだ状態で、手元が狂わないよう姿勢を保つ必要があります。また、細かい作業を間違えなく行うためには、視力の維持も大切です。普段から健康的な食事や、目に負担をかける生活、ウォーキングなど継続的な運動を心掛けています。

「思い出に残る仕事は。」

渡辺 東日本大震災で仙台新港のガス施設が損壊し、仙台市内へのガス供給がストップしました。これを受け私たち日本精機の溶接士が現地に急行し、復旧作業に当たることになりました。現場は津波の被害で大変な状況でしたが、2日

がかりの工事で仮復旧しました。溶接の仕事は人目に付きにくく、直接感謝されることが少ないのですが、この時は被災地の方々から多くのねぎらいの言葉を掛けてもらいました。人々の生活を支えている仕事であることを改めて実感しました。

「今後の目標は何ですか。」

渡辺 過去に「ボイラー溶接士溶接技能競技全国大会」で4位入賞したことがあります。さらに技術を磨き、優勝を目指したいです。また、これから就職する若い人たちに、溶接の魅力を伝えることができたらと思っています。

規格認定、評価得る

私の一品 **製品サンプル** 電気事業法に基づく「電気工作物の溶接部に関する民間製品認証規格(火力)」の認定を取得するために、同僚2人と作ったサンプル。認定を取得すると、発電所関連の工作物を溶接する際、従来は発注者が実施していた工程ごとの品質検査を自社でできるようになり、作業効率が大きくアップする。



正か審査し、同社を認定した。「サンプルが評価されてほっとしました」と渡辺さん。

審査機関は昨年、このサンプルを基に日本精機の工程管理や品質管理が適